

高齢者の住まいが多様化している。「生きがいづくり」や「地域交流」など特色を打ち出す老人ホームや住宅が目立ってきたほか、病弱な高齢者向けの「介護医療院」と呼ぶ施設も登場した。選択肢は広がるが、一般の高齢者や家族にとっては複雑でわかりにくい面も強まる。主な住居・施設の概要や費用を知っておき、いざというとき慌てないようにしたい。

駄菓子屋で店番

千葉県浦安市。住宅街にある「サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)」の「銀木庫(ぎんもくせい)」を訪ねると、「ここがどういう施設なのかわからなくなると、玄関脇に駄菓子屋があり、子どもたちが頻りに出入りしているからだ。」

そして駄菓子屋の店番をしている高齢者がこの入居者であると知って驚く。87歳の女性は「ここは気に入っている。最後までいたい。店番もできるのはうれしい。店番もできるのはうれしい。」とやりたいてはほほ笑む。

サ高住は入居者が室内で倒れたりしていないかといった安否確認などのサービスを提供する賃貸住宅。普通のワンルームマンション風のところが多く、共用の食堂を備え3食を提供するのが一般的だ。国が2011年に設けた制度に沿って民間事業者が運営する。急速に整備が進み、現在全国で約23万戸ある。

自分に合う高齢者住宅

要介護度で選択肢広く



携しているの、みとりまに対応できることもアピールする。サ高住は当初、「一人暮らしは少し不安」といった比較的元気な高齢者を想定して始まっただけに、みとりの対応は難しいところも珍しくない。

特徴づくりは成功しているようだ。全42室の銀木庫浦安は満杯だ。費用は1人部屋の場合で1日3食付で月額20万~25万円。ほか

「地域との交流」を打ち出す例が目立つ。一般的に介護必要度が高まれば「特別養護老人ホーム」や「介護付き有料老人ホーム」、認知症なら「グループホーム」などが適しているときれる。しかし単

に日常生活費、医療費、介護費なども必要になる。10月12日、東京都内で優良な高齢者住宅を事業者の団体が選ぶ「リビング・オブ・ザ・イヤー2018」があつた。大賞を獲得したのは入居者に仕事場の提供を介護付き有料老人ホーム。最終選考に残った施設には「生きがいづくり」

「地域との交流」を打ち出す例が目立つ。一般的に介護必要度が高まれば「特別養護老人ホーム」や「介護付き有料老人ホーム」、認知症なら「グループホーム」などが適しているときれる。しかし単

にからだの状態や意欲、希望などによって高齢期の住まいは様々に広がる。とはいえ住み替えで最も重要なのはやはり「立地と費用」(田村社長)。

配慮して4人部屋でも1人当たりのスペースは広め。スペースとスペースの間はついでで仕切っている。ここに入るのだからだ

弱ったり認知症になったり食事や入浴、排せつなどの介護が必要なだけでなく、終養栄養、たんの吸引などの医療処置も欠かせない高齢者。途中で退院を求められることはなく、最後までいることができる。

同病院によると、「別の病院から退院を迫られたものの、家族に頼らず自宅に戻れることもできないといった人が病院の紹介で入るケースが大半」という。かか

「本当に住み替えが必要なのか考えたい」(高齢者住宅財団の落合明氏)との声もある。介護保険サービスなどを使えば不安があっても一人暮らしが可能になることもある。なんといっても自宅で暮らせば費用はぐっと抑えられる。

(注)東京都の「あんしんなつと高齢者向け住宅の選び方」や高齢者住宅財団の資料などを基に作成。地域や施設により費用などはバラツキがある

からだの状態や意欲、希望などによって高齢期の住まいは様々に広がる。とはいえ住み替えで最も重要なのはやはり「立地と費用」(田村社長)。

住み慣れた地域や子どもの家の近くであるか、負担可能な費用かどうか等重要だ。公的な補助を受けて建設される特別養護老人ホームは概して安く済む。有料老人ホームは入居一時金も月々の費用も施設によって大きく異なる。毎月必ずかかる費用のほかに、利用した分だけ発生する費用などもある。よく確認したい。体験入居ができれば、ぜひ活用し、施設の雰囲気も知りたいところだ。

「本当に住み替えが必要なのか考えたい」(高齢者住宅財団の落合明氏)との声もある。介護保険サービスなどを使えば不安があっても一人暮らしが可能になることもある。なんといっても自宅で暮らせば費用はぐっと抑えられる。

シニアライフ情報センターの池田敏史子代表は「このところ都市再生機構(UR)などの公的な賃貸住宅も注目されている」という。まだ元気がながいってたん自宅を片付け生活をコンパクトにして老後に備えるのに適しているそうだ。サ高住などに比べ費用もかららないし、部屋も広い。

いずれにせよ早め早めに情報を集め、どこでどう暮らすかを考えておきたい。

(編集委員 山口聡)